

大学入学共通テストの探求⑥ 地理A・B第5問の分析を通して

井上 明日香

一 第1日程第5問

両日程とも第5問は「地域調査」で、第1日程は京都府宮津市が対象である。統計地図の読み取り(問1)、江戸時代の絵図と現在の地形図の比較(問2)、写真の撮影地点を選ぶ問題(問3)、地域の現状に関する考察の正誤判定(問5)はいずれも基本的な能力を問う内容である。外国人観光客の動向(問6)は、天橋立から設問へ発展させている。全般に問題が易しく、他の大問との難易度のバランスがやや気になった。

ピックアップ1題 問4 28

特産品の丹後ちりめんに焦点を当てた問題である。カで自然環境の特性と産業発展の背景の関連を捉え、キ・クで地域の問題からグローバル化を捉える良問である。ブランド化し、付加価値を高めることが生き残りにつながる視点を持たせる、今日

二 第2日程第5問

的な地域の課題を問うている。

福岡市を対象とした設問である。通勤や通学と人口集中地区の主題図の比較(問2)と、地域の特徴と人口増加率と老年人口増加率の組み合わせ問題(問4)、日本の人口移動(問6)など人口に関連した問題が目立つ。市街地の地形図が掲載されている問題(問5)は地形図を見なくても、地理の基本的な知識で解ける内容となっており、設問の仕方に工夫が求められる。

ピックアップ1題 問6 30

図形表現図の読み取りであるが、福岡市から見た日本の人口動態を問う内容である。個々の地域は他の地域との関係性で捉えることでより適切に把握できることを意識させられる。中国・九州からは転入が目立つがその他の地域からは転出が目立つその背景を確認したい。

三 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したものを要約して報告する。

蒼下(下関南高校) 第1日程は、宮津市を中心とした地域調査で、出題内容も出題方法も従来のものから大きく逸脱しておらず、授業で学んだことを基に、初見の資料を丁寧に読み取って考察することにより解答できる良問が並ぶ。第2日程は、福岡市を中心とした地域調査で、内容・方法ともに第1日程同様の出題傾向となっている。

宅島(広島大・院) 両日程ともに、生徒はどのようなテーマや問いの下で地域調査を行ったと想定されているのか。個別的な小問の寄せ集めではなく、地域を探究する視点や方法、成果の示し方など、学校現場における地域調査の改善にも示唆を与えるような大問のデザインに期待する。

中村(鳥取西高校) 第2日程問2..福岡市周辺のD・I・Dと通勤・通学率を適切に読み取る設問。図表を丁寧に読み取るだけでなく、①昼夜間人口比率、④大都市圏における鉄道沿線の住宅開発といった知識・理解を根拠として考察することが試される。

山口(上五島高校) 第1日程問5は、聞き取り調査の内容から地理的事象の考察を行う問題であり、これからの地理の授業においても地域調査が重要であるというメッセージが伝わる。何を目的に現地調査をしたのか? 現地調査でしか分からないことは何か? に焦点をあてるとさらに良い問題となるだろう。

首藤(広島井口高校) 第2日程問4..福岡市都心から郊外への景観変化と人口増加率等の組み合わせを選ばせる設問。写真のキャプションからドーナツ化や都心回帰による人口増加率の違いを想起する必要がある、授業で扱う場合に、各地点における老年人口増加率の違いの原因についても着目して考察させたい。

後藤(佐倉高校) 地域の課題や全国や世界との結びつきを考えさせる地域調査は、共通テストの出題を解くだけでも意義や楽しさが伝わる。第1日程の問4は、三つの空所を8択から選ぶ形式が斬新だった。第2日程の問6は、福岡市の九州と全国における立ち位置を人口移動をもとに考えさせた良問だった。

(県立川崎高等学校)